

第57回全国保育団体合同研究集会 群馬実行委員会

開催地企画を聴いていただくために

目の前に広がる
子どもの海
あらゆる可能性を求めた
子どもの海
わたしたちはその海に向かって
語りかけ
歌い
走り
汗を流します
千古より
火を囲み 食べ物を分かち合い
語り合った 人々の生活
自然に祈りをささげ
自然とともに歩んできた 人々の生活
そこに人間の歩みの原点を思います
無数の葉をゆらし
夏の風 吹きぬける 今
八十年前の あの夏の記憶を呼びさまし
自然の音に耳を澄まし
子どもの海 に向かって
わたしたちの火を
もやしていききたいと思えます

（「プロメテウスの火」に寄せて

かしの木保育園 高橋 弘子）



「プロメテウスの火」

丸山 亜季 作曲

(『ギリシャ・ローマ神話』 野上弥生子 訳より)

木村 次郎 詩

朗 読

天と地と海がつくられるまえは
見渡すかぎり 世界はひとつのカオスだった
カオスは ごちゃごちゃにまぜあわさった
形がないかたまり
ただ 重さがあるというだけのものだが
そのなかには いろいろなもののもとが
ふかく眠っていた

1, 海 よ (合唱)

海よ 流れよ
空気よ澄み光れ
地よかたまれ
山よ高くもりあがれ
森よ 泉よ 星よかがやけ
魚^{うお}よ 鳥よ けものよ
息をふけ 息をふけ

朗 読

空と地ははなれ 大地は生まれた
空気は澄み 海は流れた
谷はふかく 山はそびえたつ
森に鳥は鳴き けものはほえる
あらゆる生物は生まれたが
人間はいなかった
プロメテウスは土をこね
自分に似せて人間をつくった
人間は両足で立ち
人間は星をみつめる
プロメテウスは 動物たちに
つばさやつめや殻をあたえた
動物たちは 嬉々として飛び はねまわる

2, 鳥よとべ (合唱)

鳥よとべ けものよ走れ
自由にとべ 自由に走れ

朗 読

プロメテウスはこまった
動物たちにあたえてしまった
人間にあたえるものがなくなっていた
プロメテウスは考えた
天にある太陽の火の車から
火をもってこよう
だが 天の火は
みだりに持ち出してはならないものだった

3, プロメテウス

女神アテネよ
人間に知恵をあたえねば 不幸です
いつまでも心は暗く
けものより不幸です
人間に火をあたえてください

4, アテネ

火の車は はげたかの群に守られている
はげたかは 鋭いくちばし 鋭いつめ
プロメテウスよ それでもあなたはゆくのか

5, プロメテウス

わたしには 勇気と忍耐がある
わたしには 真理を守る力がある
女神アテネよ 天までおつれください

6, プロメテウスは空をゆく (合唱)

プロメテウスは空をゆく
アテネとともに空をゆく
火の車 もえたち光り
めくるめく赤い炎
ざわめくはげたか わめくはげたか
わめくはげたか はげたか

朗 読

プロメテウスは 太陽の火の車めがけ
まっすぐすすむ
はげたかの群の中をまっすぐすすむ
きずつきながらまっすぐすすむ
プロメテウスは たいまつに火をつけ
プロメテウスは 火を高くかかげ
うちたおされている はげたかを越え
プロメテウスは 女神アテネとともに
天をくだる

7, もえろ もえろ (合唱)

もえろ もえろ
火よもえろ
もえろ火よ
もえろ もえろ
火よもえろ 火よもえろ
われらの火よ



朗 読

人間に火がわたされた
人間の歴史がはじまった
人間は 火でものを焼いてたべ 寒さを防ぎ
人間は 火でものをつくった
人間は 火によって文化や文明を生み出した
ついに 人間は 月の世界にその足で立った
また 人間は 人間の体や心をも焼きつくす
原爆をつくりだした
人間が火を正しく使うことで
人類の文化はさかえる
火は民衆の労働の手によって
いっそう かがやかしくもえたつ
その火を 高くかかげよ

8, 高くかかげよ (合唱)

高くかかげよ もえる火を
みにくきもの 焼きつくす火を
あらし吹くとも この火は消せない
高くかかげよ われらの火を

高くかかげよ もえる火を
世をうちひらき 光増す火を
あらし吹くとも この火は消せない
高くかかげよ われらの火を

「プロメテウスの火」の朗読を学んで

園の中で学習を重ねてきた「プロメテウスの火」を今回、合研に向けて他園の方と学びおいました。色々な人の朗読を聞いて「あーそういう読み方もあるんだ」とそれぞれの園で積み上げてきたものを感じ、とても新鮮でした。一文一文の掘り下げ方も深くて初めて知り得たこともありました。

今年度2回目の年長の担任をしています。教材の話し合いをしたり、今回の学習会に参加したりの積み重ねとノーベル平和賞を受賞した被団協の田中さんの話を聞いたこと、そして前の時と世界情勢が大きく変わっていること...自分の中で思うこと、考えることがいっぱいありました。

何年やっても新たな発見がある「プロメテウスの火」という教材が訴えかける力。子どももそこを受けとって深くなっていく教材だと思います。

合研に参加される皆さんに、こういう教材があることを知って欲しいです。

(5番目の朗読をします。)